

(別紙様式2 ②)

議員報告書

1 議員名	玉井直子
2 期 日	平成30年1月13日～平成30年1月14日
3 研 修 先	東京都千代田区大手町1-3-7 日経ホール
4 内 容	ひろしま芸高田神楽第7回東京公演 及びふるさと応援の会四地区合同情報交換会

■研修の目的

7回目をおかせるひろしま芸高田神楽東京公演の現地での検証と、ふるさと応援の会関東地区の活動、広島、関西地区、本部による四地区情報交換会と意見交換など研修。

■概 要

- ひろしま芸高田神楽東京公演 日経ホールにて。
- ・「地方創生推進課」によるふるさと納税PRに協力。来場者にふるさと納税についてアンケート用紙に記入をお願い。
 - ・芸高田ふるさと応援の会四地区情報交換会。
 - ・各地区の平成30年度活動計画、活動状況 意見交換。
 - ・公演に参加。

■成果または所感等

これまで7回の東京公演が開催されてきました。
今回参加させてもらってこの取り組みの効果や、検討すべき点を研修してもらった。
この公演は「関東圏域のみならず」国外からの参加もあり、たいへん盛況だったことは、これまで続けてきた成果であると思います。関東圏の方々の中でも芸高田市出身の方が多く見受けられ、神楽公演を通じてふるさとを感じていただけていることは、大変いいことだと思います。
ふるさと納税については、まだまだ認知されていないことがわかりました。
アンケートを書いてもらいながら、説明やお願いをしましたが、まだ検討していかなくてはならないと感じました。
そして四地区の情報交換会ですが、各地区とも芸高田市ふるさとと何か、もりたてようという取り組みをされていて、とても共感できるものがありました。
情報の共有をしながら、いろいろな取り組みを進めていきたいと思っております。

議員報告書

1 議員名	山根 温子
2 期 日	平成30年 1月 13日 ~ 平成30年 1月 14日
3 研 修 先	東京日経ホール（東京都千代田区大手町）
4 内 容	ひろしま安芸高田神楽東京公演及びふるさと応援の会四地区合同懇談会

■研修の目的

市の活動内容と応援の会との情報交換の様子・活動計画等を、実際に活動参加するとともに応援の会各地区役員の方々と交流する。

■概 要

ひろしま安芸高田神楽第一部開演前にロビーにて観客の方の出迎え、ふるさと納税・神楽衣装の試着体験などへの会場案内を手伝うとともに、観客の方の反応を見た。また、ふるさと応援の会三地区役員（本部・関東地区・関西地区）との情報交換会・交流会に出席した。

■成果または所感等

神楽公演とふるさと応援の会との情報交換会からの二点についての所感をまとめました。

1. 神楽公演前のロビーにおいては、神楽団等の知人・友人の方が来られており、ふるさとを懐かしく思われていた。また舞台公演後の観客からは実際に神楽をみる事ができてよかった、圧倒されたとの声あり。

ロビーにおける観客の動きは、会場の商工会・ふるさと納税・試着ブースなどへの流れも多く見受けられた。

2. 各地区との情報交換会では、本部より情報発信や会員交流など報告があり、関西地区は会員増に向け組織を固めていくとのことであった。関東地区は会員300人、企画会議や役員会議を定期的に行われ、役員がそれぞれにプロジェクトを担当して進められている。各界において活躍された方々の知識・人脈などから具体的に動いているプロジェクトもある中、地元がしっかりと受け止め、この機会を活かしていくことで、ふるさと応援に添えていかなければならないと感じるところです。

(別紙様式2 ②)

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	前 重 昌 敬
2 期 日	H30年1月13日 ~ H30年1月14日
3 研 修 先 等	東京都千代田区大手町 1-3-7 日経ホール
4 内 容 (目的)	広島安芸高田神楽第7回東京公演 及びふるさと応援の会四地区合同情報交換会
■ 研修概要	
〔主な内容〕	
1. 「安芸高田市ふるさと納税」PR・・・市地方創生推進課	
・ 来場者に「安芸高田市ふるさと納税」のアンケート記入及びくじ引きの手伝い	
2. 安芸高田市ふるさと応援の会四地区情報交換会	
・ 報告内容	
①各地区の平成30年度活動計画	
②関東地区の活動状況	
3. 意見交換	
・ ふるさと応援の会：7名、議員：10名、市職員：8名・・・計25名	
4. 安芸高田神楽公演2部に参加	
■ 成果または所感等	
〔参考とすべき事項〕	
・ ふるさと納税のアンケート協力の呼びかけで、特に人と人との関わりを持つことで安芸高田市への情報提供等深く理解を頂いたと感じた。特に地元を愛しておられる方々からの意見（次回からの進め方等）は大変参考となった。	
・ ふるさと応援の会関東地区で進めて頂いている、とまtoを使用したピューレ等また、サテライトオフィス誘致にむけた取り組みは、今回特に参加したことで人との繋がりは大変に重要であると感じた。今回のふるさと応援の会役員さん達との交流は、今後地元をしっかりとアピールするためにも、常に（定期的に）情報交換の場を持つことが大切である。	

• 6次産業化、神楽、森林、企業誘致、国際化の6プロジェクトの取り組みは、前述したように今後は、議会全員との意見交換も必要と考え、早期に実現に向け提供していきたい。特に、情報の共有は議会全体が把握していることが大切である。

(別紙様式2 ②)

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	山 本 優
2 期 日	平成 30 年 1 月 13 日 ~ 平成 30 年 1 月 14 日
3 研 修 先	東京都千代田区大手町 東京日経ホール
4 内 容	第 7 回神楽東京公演の現地視察、および ふるさと応援の会 4 地域交流会参加
■研修の目的 ふるさと応援の会 4 地区の来年度の取り組み、活動について説明、報告を受け、我々行政、議会として参考とするとともに、どのように取り組んでゆくか、また、神楽公演の成果、受け止められているかなどについて研修した。	
■概 要 別紙の参加者のもとで（広島地区川村会長は都合により欠席）各地区の活動状況、活動計画について報告説明が行われた。 関西地区については発足したばかりなので具体的な活動についてはこれからということであった。役員交流、会員拡充を目指す 広島地区は欠席のため説明なし。 本部については サンフレッチェ、湧永レオリックの応援、広報、情報発信、毛利家、郡山城についての研修。野菜生産による特産品の開発など活性化のための応援。組織拡充を目指す。 関東地区について 設立 5 周年を迎えイベントを計画。（財界との交流会、神楽公演などを予定） 予算的には厳しいが、企業より、組織対策、神楽公演対策、土師ダム花火大会対策として寄付の申し出があったとのこと。 その他森林プロジェクト、企業プロジェクト、国際化プロジェクト等に取り組んでゆく 人口減対策としては教育環境の整備が重要であるので協力、応援してゆきたいとの説明があった。 このたびは 9 名の議員が参加したのでそれぞれが応援の会の思い、活動について意見を述べた。 意見交換会終了後、神楽公演を鑑賞、各ブースの手伝い、観客のお見送りをしお礼をのべた。	

■成果または所感等

今回の交流会において、本部の説明については地元であるのでおおよその内容は理解できている。

関西地区は昨年発足したばかりなので理解できる。

関東地区の会員の思い、行動、活動、考え方のレベルは大変なもので、人材もそうであるが視野の広さ、経験、発想について大変参考にすべきものであった。

我々も地域は大事であるが、地域の小さなことでも広い視野で思考してゆくことが重要であると思いました。

応援の会の人たちをもっと地域に取り込み協力していただくよう体制を作ることが必要と思う

神楽公演は全席完売でいつもながら大変好評であった。初鑑賞者も半数、リピーターも半数、広島関係者も半数を占めている。お見送り時の皆さんの表情は大満足の人たちばかりであった。今後も継続を望む声多数であった。

各ブースについては好評であったが、安芸高田市の特産品についてはもっと努力しインパクトのあるものを開発しなければと思う。

各地区の会員の発想について議員の皆さんも大いに触発されていた。我々議員、議会も広く大きな視野を持って地域のために行動、発言してゆかなければいけないと感じた。

(別紙様式2)

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	秋田 雅朝
2 期 日	平成30年1月13日 ~ 平成30年1月14日
3 研 修 先 等	東京都千代田区大手町1-3-7 日経ホール
4 内 容 (目的)	ひろしま安芸高田神楽第7回東京公演 及び ふるさと応援の会四地区合同情報交換会
5 報 告 事 項	
(研修目的)	
<p>地域の誇りである「安芸高田神楽」の東京公演を通じて、「スポンサー協力、ボランティア協力等、関東圏域住民や企業を巻き込んだ安芸高田ファンの獲得」や、「歌舞伎に引けを取らない、全国に誇れる芸能であることの再認識」の現地での検証や、「ふるさと応援の会関東地区」を中心に、「広島」・「関西地区」・「本部」による「四地区情報交換会」において、「安芸高田市のプロモーション強化・知名度向上・定住促進・郷土愛の醸成」などの効果の継承・発展について、意見交換したり、議員としての今後における活動や見解の参考にするために、東京にて研修してまいりました。</p>	
(概要)	
<主な内容>	
1. 「地方創生推進課」による「ふるさと納税PR」の協力 * 来場者に「ふるさと納税」について、アンケート用紙に記入をお願いする。	
2. 「安芸高田ふるさと応援の会四地区情報交換会」	
(1) 報告事項	
① 各地区（本部・広島・関東地区・関西地区）の平成30年度活動計画など	
② 関東地区の活動状況について	
(内容の抜粋)	
本部：サンフレッチェ・レオリックの応援の充実 毛利元就を中心としたイベントの開催 女性との交流を深め、計画は後世に繋げていく必要がある	
広島：当日は役員が欠席	
関東：安芸高田市が元気になるよう身近な存在でありたい 6プロジェクトを中心に活動強化を図りたい 日本酒と食文化を繋げるイベントにより、企業誘致を図りたい	
関西：昨年9月の立ち上げのため、活動報告はない 役員10名で、今年9月に総会を行い、考え方を整理したい	

(2) 意見交換

出席者（ふるさと応援の会 7 名、議員 10 名、行政職員 8 名） 計 25 名
全員が自己紹介と意見発表を行う

3. 第 2 部公演に参加

一演目「吾妻山」・二演目「八岐大蛇」を応援鑑賞

(成果及び所感)

神楽については、これまでに 7 回の東京公演が開催されましたが、1 度も参加しておらず、現地に出向くことにより、これまでの成果の検証や効果の継承を検討すべく研修して参りました。まず感じたことは、この公演に関東圏域のみならず、国外（私の前席はマンマー）からの参加もあり、神楽公演が盛況であるということでした。これは、これまでの取り組みによる成果であり、今後も、この取り組みを続けることにより、色々な面で効果が期待できるものと感じました。また、関東圏における参加者は、安芸高田市出身者が多く見受けられ、「神楽」を通じて「ふるさと」を想う気持ちがひしひしと伝わってきて、この取り組みの成果を感じることができました。

次に、「ふるさと納税」について感じたことは、来場者の多くの方の「認識不足」ということでした。アンケートを取りながら、「説明」と「お願い」をしましたが、このことは本市のみならず、国をあげて再度検討する必要があると感じたところです。

最後に、「ふるさと応援の会」との情報交換会についてです。各地区から報告を頂いた内容の中で、どの報告も共感しましたが、私は特に関東地区の「6 つのプロジェクト」に興味をもち、今後の議員活動の参考にしたいと思いました。「6 次産業化・神楽・森林・企業誘致・国際化」等のプロジェクトについて、取り組みや見解について詳細な説明があり、関東地区の会員がそれぞれのプロジェクトに分かれて取り組みをなされていることを知り、感銘を受けたところです。都市に住みつつ安芸高田市を想いながら「少しでもふるさとが良くなれば」との思いが伝わってきます。中でも、「国際化プロジェクト」では、国外に目を向けた取り組みを考えられている点は、安芸高田市内のことしか考えられない私にとっては、この会に参加した最大の成果だったと思っています。関東地区の情報を頂きながら、今後の本市の施策に活用できればと思っています。

今回の研修は、上記に掲げたように、大変有意義なものだったことを付け加えて報告とさせていただきます。

議 員 報 告 書

1 議 員 名	水 戸 眞 悟
2 期 日	平成30年 1月13日~14日 (2日)
3 研 修 先	東京都千代田区大手町 1-3-7 日経ホール(会議室他)
4 内 容	ひろしま安芸高田神楽第7回東京公演に係る安芸高田市ふるさと応援の会 4 地区情報交換会並びに出演神楽団との情報交換会に出席
<p>■研修の目的</p> <p>安芸高田市ふるさと応援の会 4 地区情報交換会に出席し、近況の把握と今後の方向性などにつき意見交換に臨むと共に出演神楽団との情報交換を行う。</p>	
<p>■概 要</p> <p>安芸高田市ふるさと応援の会 4 地区情報交換会出席者名簿は別添のとおりである。</p> <p>各地区からの近況報告の概要</p> <p>○本部(世羅乃理代副会長)</p> <p>サンフレッチェスポンサードゲームへの参加促進、湧永レオリックの積極的な応援、道の駅あきたかたについての情報発信等と共に、毛利元就関係の研修会を計画する。今後共広島、関西、関東の各地区との交流を深めたい。</p> <p>○広島地区(会長欠席)</p> <p>○関西地区(児玉 徹会長)</p> <p>昨年9月10日設立の後、組織形成に取り組んだ。現在110名程度の会員数となった。</p> <p>今後組織固めと会員の勧誘に努めたい。活動計画は今後役員会で調整する。本年の総会は、9月2日と決定している。</p> <p>○関東地区(吉川京二会長、中村健郎副会長)</p> <p>会員の中にはグローバルな方々がおられるので心強い。</p> <p>当面今回の東京神楽公演を成功させることに傾注した。</p> <p>会員数は現時点で300人を超えた。</p> <p>今年は設立5周年なので8月4日の総会で神楽公演を希望している。</p> <p>独自産業プロジェクトでは調理用トマトに挑戦しているが、市民総ぐるみの活動につなげていきたい。昨年3tだったものを今年は10tを目指す。</p> <p>新しい神楽の展開へ応援プロジェクトを考える。</p> <p>森林プロジェクトではパラカの森が中山間地域の活性化に役立つと思っている。</p>	

企業誘致プロジェクトではサテライトオフィス等企業にアクションしているが、種まきが大変で早く芽が出て欲しい。

インバウンドへの対応として体験の形態を通した日本文化に触れるプロジェクトを模索してはどうか。

教育が最大のネックと思うが教育環境の整備充実も一考すべき。

■成果または所感等

安芸高田市ふるさと応援の会は本部、広島、関西、関東と一連の広域ネットワークが形成されつつあり、本市の発展のため多様な観点から示唆をいただくことで大きな役割を担っていると感じた。

総会員数は2,400名超となり、いかに本市出身者としての満足度を醸成できるかが、本市に課せられた大きな課題と考える。

農産物をはじめ毛利元就や神楽などの伝統芸能、スポーツなどの本市の魅力と可能性より一層の磨きをかけてこの応援の会を元気なPR媒体と考えたい。

多種多様な提言をいただくにあたって、総合的な調整機能を果たす役割を本市の行政が担う責任の重さを痛感した。

本市はこの重圧に耐えうる体力を養う必要がある。

今回は横田神楽団の公演であったが、団員との意見交換では2度目の東京公演とはいえ各自これまでの苦勞と緊張とそして充実感を熱く語ってくれていた。

自らのライフワークがあるにもかかわらず本市の名誉にかけて東京公演という華舞台を結実するに至った功績を称賛したい。

ひろしま神楽東京公演をはじめとして、安芸高田市ふるさと応援の会の今後の本市としての方向性をしっかりと見極めたい。

(別紙様式2 ②)

議員報告書

1 議員名	玉井直子
2 期 日	平成30年1月16日～平成30年1月17日
3 研 修 先	福岡市博多区博多駅東1丁目16-14 リファレンス 馬又東ビル
4 内 容	地方議員研究会 議員20年の経験から語る基礎講座
■研修の目的 宮本正一氏(日本公共経営研究所)を講師に、議員20年の経験から語る基礎講座を2日間にわたり受講する。	
■概 要 <ul style="list-style-type: none">・福祉担当部長が共感する認知症関連質問・学校統廃合と廃校の利活用・キラリと光る質問原稿の書き方・政策提案質問の事例～私の20年間～	
■成果または所感等 <p>認知症関連質問とは、そもそもアルツハイマー病とはなにか、認知症は症状でアルツハイマーは病名であること、介護保険制度をよく理解すること、制度の経緯、基本的な仕組み、改正の現状と今後の役割。議会でも「使える質問、そしてアルツハイマー病への取り組み、認知症高齢者等々、やさしい地域づくりに向けての概要など」。</p> <p>学校統廃合と廃校の利活用とは、直面した統廃合の事例、地元の学校がなくなるその時の議員としてのかわり方、廃校の効果的な官民連携の事例、これからの自治体議員の心構え、質問原稿の書き方や政策提案質問の事例</p> <p>2日間にわたり、研修に参加して、認知症については、議員としてできることを、取り組む。介護保険法の第一章の目的を熟読しておく。学校統廃合と廃校の利活用とは、我が国が直面する学校統廃合、地元の学校がなくなる！その時の議員としての関わり方について、考えさせられる研修となりました。そして質問の内容の考へ方、政策提案の考へ方、役に立てばと思</p>	

議員報告書

1 議員名	
2 期 日	2018年 / 月 22日 ~ 2018年 / 月 23日
3 研修先等	東京都中央区京橋 TKP 京駅八重洲 カフェインセンター
4 内容 (目的)	地方議員研究会 インフラ老朽化問題
5 報告事項	<p>講座 根本祐二教授 (東洋大学)</p> <ul style="list-style-type: none">○ インフラ老朽化問題は人命にかかわる○ 人口減少時代の公共施設○ 熊本地震から得られる教訓○ 日本の公共事業の歴史○ 公共事業の政策の変更 <p>インフラメンテナンスの思想</p> <p>まとめ</p> <p>人口増加時のモデルの投資は老朽化が必要 かつては、人口減少時のモデルは投資すると 稼働率が下がっていく 下りばコストも下が りやすくと又集約化は学校 集会施設 公営住宅は同じ目的を有する施設同士 を統合するは人口減少は当然 必要は手法である インフラの老朽化は人命にかかわること</p>

議員報告書

1 議員名	玉井直子
2 期日	平成30年1月23日～平成30年1月23日
3 研修先	東京都中央区京橋1-7-1 湘ビルディング TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター
4 内容	地方議員研究会 東洋大学 根本祐二教授特別講座
■研修の目的 全国の自治体では公共施設等総合管理計画の策定が終じしいは個別施設計画の検討が 始られた。統廃合などの具体的な施設の在り方を決めることは容易なことではありません。 インフラ更新を機に人口減少時代に持続可能な地域にするにはどうすれば良いかを考え、 理論編と応用編を受講する。	
■概要 インフラ老朽化問題 理論編 ・インフラ老朽化問題の本質と政策の転換 ・個別施設計画標準モデル ・標準モデルの参考事例 インフラ老朽化問題 応用編 ・標準モデルの復習 ・シミュレーションの解説	
■成果または所感等 インフラ老朽化問題は人命にかかわること、とにかく早めの対応が必要で、 いろんな事例からインフラの老朽化問題を考え、どう維持していくかを考える。 手づくりの戦略が大事で、この手を将来どうやりかへっていくかをしっかりと 考えていかなくてはいけないと思いました。 社会保険を減らす”今まで通りのインフラを維持するのは不可能ですが今ある大事な ものは残さなくてはなりません。 理論編も応用編も参考にしたい、これから活動に活かしていきたいと思っております。	

(別紙様式2 ②)

議員報告書	
1 議員名	芦田 宏 治
	平成30年1月24日 ~ 平成30年1月25日
3 研 修 先	東京都中央区京橋1-7-1 TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター
4 内 容	地方議員研究会の「どこよりもわかりやすい自治体財政の基礎」4講座を受講する (1講座 2時間30分)
■研修の目的 自治体財政について基礎的な知識を身につけるとともに、地方財政制度を理解し財政診断、財政改革まで専門的な知見を高めるため本研修に参加した。	
■概 要 どこよりもわかりやすい自治体財政の基礎 講師 森 裕之 (立命館大学 教授) 24日(水) これが自治体財政のすべてだ ①・② ・国と地方の関係をおさえる ・地方財政計画と自治体の予算 25日(木) あなたの街の財政状況を確認 ①・② ・決算カードを見る ・決算カードを比較する ・歳入歳出を詳しく解説	
■成果または所感等 自治体財政の基礎研修4講座を受講した。1日目は自治体財政の基礎を学んだが、地方財政制度を理解することから始まり、国と地方の行政事務分担、財源配分や地方財政の仕組み、自治体の歳入・歳出まで大変わかりやすい研修内容であった。 2日目は決算カードをもとに、参加自治体それぞれの財政状況の読み方、財政分析の仕方、財政健全化のためのチェックポイントなどを詳しく学ぶことができた。また、全国の県や市町の成功事例や失敗事例も非常に参考になった。 自治体財政については、政府の動きと自治体の財政制度との関係をよく知るとともに、安芸高田市の歳入・歳出の運用実態をしっかりとチェックしていけるよう、これからも財政に関する研修には積極的に参加して知見を高めていきたい。 今後は議員同士が協力して、安芸高田市の財政についての勉強会などを行っていくことも働きかけていきたい。	

議員報告書

1 議員名	山根 温子
2 期 日	平成30年 1月 25日 ~ 平成30年 1月 26日
3 研 修 先	たましんRISURUホール（東京都立川市錦町3丁目3-20）
4 内 容	合併自治体検証 財政特別講座

■研修の目的

「平成の大合併」最盛期から10年。本市と同様、合併特例債措置の段階的減額となる自治体が多く出てきている。財政検証と他の合併自治体の話を聞き参考とするとともに、これからの展望について学ぶ。

■概 要

- (1)それぞれの自治体が合併を選択した状況と経過を、今回の講座に参加した14自治体（19人）の合併の経過報告事例より様々な形や課題などを聞く。また、これまでの合併の歴史と国の意図や合併のメリット・デメリットについて学ぶ。
- (2)財政の検証にかかる情報をどのように集め、分析していくかその方法や合併のチェックポイントなどを学ぶ。

■成果または所感等

(1)平成の合併では、背景にバブル経済崩壊後の低迷があり、全国の市町村数を1,000（3分の1）を目標に国の負担の軽減を図った。合併のメリットは、サービスの多様化・高度化への対応、住民の利便性の向上、重点的な投資による基盤設備ができること、地域のイメージアップ、行財政の効率化が期待される。デメリットは、地域間格差が生じる可能性、きめ細かなサービスができなくなる、歴史・文化などへの愛着が損なわれる、合併市町村の格差の調整困難、サービス水準の低下や公共料金の負担増大への懸念など。

(2)合併のチェックポイントには、新市建設計画と総合計画の整合性、人口変化や過大な投資計画、市役所の変化（人件費、職員数の経年変化、公共サービスの負担、市民参加制度の充実など）。また、具体的な合併効果として、行政運営の効率化、財政運営の効率化、境界の変更による利便性の向上、公共施設の適正配置や教育環境の整備と文化水準の向上、新市のイメージアップなど。

財政の検証では、地方交付税算定台帳や決算統計などの情報入手により経年的な推移を見ていくことと、合併算定替の影響や合併特例債の状況を見ることも必要。

それぞれの自治体ごとに検証に向け入手した数値を、当てはめて見ていくには時間が足りず、持ち帰りの宿題となったが、今回類団ではⅠ-0.1、Ⅱ-0.1.2、Ⅲ-1.3、Ⅳ-3、Ⅴ-1、中核市などさまざまな自治体の参加があり、課題を共有できた。議会の姿についても、面積の違いには大きいものがあるが、人口が6~10万人の自治体議会の定数が20~22人と聞いて驚いた。

(別紙様式2 ②)

議員報告書	
1 議員名	前重昌敬
2 期日	H30年1月28日～H30年1月30日
3 研修先等	〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 戸田ビル4階
4 内容(目的)	地方議員研究会主催特別講座
■ 研修概要	
〔1日目〕平成30年1月29日(月)	
(1) 防災対策特別講座(10:00～12:30) 元佐賀県武雄市市長 樋渡啓祐	
①九州北部豪雨・熊本地震・武雄市での対応	
②武雄市のSNS・Google マップの活用方法について	
③災害時に議員はどう動いたか?	
④防災計画の修正とタイムラインについて	
⑤自治体の受援力と受援計画について	
(2) 子供の貧困対策特別講座(14:00～16:30) 元佐賀県武雄市市長 樋渡啓祐	
①武雄市の「子どもの貧困対策課」の取組	
②子どもの生活実態調査からわかる課題と解決策	
③子どもの貧困に動き出した地方自治体 ～子どもの未来を応援する首長連合～	
④地方議員の活動で子どもの貧困問題を解決しよう	
〔2日目〕平成30年1月30日(火)	
(1) 教育改革特別講座(10:00～12:30) 元佐賀県武雄市市長 樋渡啓祐	
①武雄市のICT教育の目指す姿	
②武雄式反転授業の効果	
③タブレットを全ての児童に	
④官民一体型学校	

⑤世界一通いたい学校へ

(2) 空き家対策特別講座（14:00～16:30）

元佐賀県武雄市市長 樋渡啓祐

①空き家の推移や分類

②既存の空き家・空き地バンクの課題

③全国空き家対策協議会・議員連盟の活用

④地方創生・人口対策として空き家から切り込み

■ 成果または所感等

〔参考とすべき事項〕

〔1日目〕平成30年1月29日（月）

(1) 防災対策特別講座（10:00～12:30）

- ・非常時バッテリーの確保（無線、携帯等）
- ・災害時市民と行政が一体となり、災害情報を共有。携帯等情報が入らない方々への災害情報を伝える。（教えてあげるシステム・・・生活支援システム等の活用）
- ・常に災害情報の「写真」を出していく。これにより、市民に安心感を伝える。
- ・議員として、災害対策本部へ出向き執行部の情報提供を市民に伝えていく。
- ・災害時の通行止め等をマップを活用し情報提供。
- ・フェイスブック等双方向できる携帯を活用し、活動状況（ボランティア・被災地）を常に掲載していく。
- ・豪雨、地震災害時等、現場へ出向き何が不足しているかメモを取り、記録を残す。写真・映像を常に出していくことは大事である。
- ・常に記録を残し、それに対し改良、見直ししていく。これを市民に啓発していく。
- ・災害対応のスケジュール表・・・タイムラインの作成必要
災害が発生することを前提として、関係者が事前にとるべき行動を「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して時系列で整理したもの。
- ・受援計画の作成からマニュアルの作成へ。
自治体の受援力を高めるためにも、人的支援の受入、物資支援の受入の計画を作成し、マニュアル化していくことが必要。特に民間と協力していくためにも災害時の民間業者と連携協定を事前に交わしておくこと。
- ・防災＝教育・・・つなぎ合わせる。事前協議～訓練実施（親と共に）～記録伝授

(2) 子供の貧困対策特別講座 (14:00~16:30)

- 子供の相対的貧困率は上昇傾向。大人1人で子どもを養育している家庭の相対的貧困率が高い。就学援助を受けている小学生・中学生の割合も上昇続いている。自治体としてこれをどこまでどうやるか、その為には現状調査が必要。
- 安芸高田市として上記の現状の把握はできているか。子どもの生活実態含め。
- 困難世帯は情報が伝わっていない。
- 「調査」 ⇔ 「支援」へ・・・「完成主義」⇔「修正主義」へ
- 子供の貧困・・・正解はない！

〔2日目〕平成30年1月30日(火)

(1) 教育改革特別講座 (10:00~12:30) 佐賀県武雄市の取組から

- 今まで「正解性」 ⇔ 「正解をつくる」へ。思考回路を求める～問題解決能力
- 「生きる力」を育てる
 - ①情報化社会への対応・・・過去「農業革命」～「産業革命」～「情報革命」へ
 - ②21世紀型スキルの育成・・・「創造性」・「コミュニケーション能力」・「協働的問題解決能力」
- ICT教育機器の整備
 - ①電子黒板の整備 (H21年度～)・・・普通教室整備率：105% (H28.6 現在)
 - ②タブレット端末の整備・・・全市立小中学校へ1人に1台の整備
- 入学式に市長から児童へ機器贈呈 (貸与)。
- 武雄式反転授業 (予習中心で)・・・スマイル学習
 - School Movies Innovate the Live Education classroom
 - 「先生 (学校) の動画によって、教室がより革新する授業を」
- ICTを活用した教育・・・たえず検証報告
- 民間との連携・・・食育スクール：(株)タニタ、英会話オンライン学習：(株)アゴラ
 - 花まるタイム (思考力教材)：花まる学習会
 - プログラミング教育：DeNA (ソフトウェア開発)
- プログラミング教育の活用
 - 〔目的〕
 - ①「筋道を立てて考える力 (論理的思考力)」
 - ②「構成等を考える力」
 - ③「空間認識や距離感覚等の立体認識力」
- 目指すのは「世界一通いたい学校」・・・明るく・元気に・楽しく

(2) 空き家対策特別講座（14:00～16:30）

・空き家・空き地の現状と課題・・・空き家・空き店舗・工場跡地・耕作放棄地等の増加

・行政として問題となっている現状踏まえ・・・庁舎内へ「空き家等対策課」の設置

・空き家バンクシステムへの登録・・・情報一元化の必要

・空き資源を活かす役割・・・空きスペース、廃校の利活用

・キーワード・・・「移住」「情報発信」「サテライトオフィス」「居場所」
「地域の事を思う地元住人との融合」